

2024 年度

福岡県糸島市

「女性のはたらき方研究プロジェクト」

活動報告



相模女子大学・相模女子大学短期大学部

夢をかなえるセンター連携教育推進課

「福岡県糸島市女性のはたらき方研究プロジェクト」発行

目次

1. 本プロジェクトについて

2. 活動の流れ

3. 活動のまとめ

①はたらき方に関するインタビュー

・前原幼稚園 柴田美穂さん

・弥富農園 弥富明子さん

・RUSTIC BARN 野見山昌子さん

②プロジェクトOGとの交流会

③糸島市の魅力発信

④相生祭の地域物産展への出展

4. 活動を終えての感想

5. お世話になった方々のご紹介

1 本プロジェクトについて

本プロジェクトは、近年、SNS やテレビなどで話題となっている福岡県糸島市をフィールドに「多様な女性の働き方」を研究しています。

「多様な女性の働き方」を研究することで、今後の就職先だけでなく、今後どのような人生にしたいかなど、自身の人生について考えるきっかけになるヒントを得ることができるプロジェクトです。実際に2泊3日で糸島市に訪問し、研究を深めていきます。

活動内容としては主に下記の4点です。

① インタビュー調査

糸島市在住の方を対象に、働き方や人生観などのインタビューを行い、今後の参考にさせていただきます。また、普段関わる機会のない方々とコミュニケーションを取ることで、社会で必要とされるコミュニケーション能力を身につけることができます。さらに、インタビュー対象者に対し、インタビューの依頼からお礼までメールでやり取りを行うことから、文章力も身につけることができます。

② SNS での情報発信

本プロジェクトでは、インスタグラムを活用し、糸島市の魅力や活動内容について発信を行っております。ターゲットとしては、20代～30代の女性で、「糸島市へ旅行したい人」を対象に情報発信を行っております。

③ プラットフォームの構築と活用

これまでに本プロジェクトに参加した上級生や卒業生と交流することができるプラットフォームを構築します。また、交流を通して人脈構築や、糸島市のおすすめスポットなどを知る機会があります。

④ 相生祭の地域物産展への出展

糸島市の魅力を様々な人に知ってもらうため、相生祭の地域物産展で糸島市の商品販売を行っております。販売に向けた準備では、商品の試食、商品の発注個数や販売価格の設定なども行い、商品の魅力を知ったうえで、伝えることを意識しております。

2 活動の流れ

日程	活動
2024 年 6 月 25 日	第 1 回ミーティング 顔合わせ
2024 年 7 月 9 日	第 2 回ミーティング
2024 年 7 月 16 日	第 3 回ミーティング
2024 年 8 月 7 日	第 4 回ミーティング
2024 年 9 月 8 日	OG 交流会
2024 年 9 月 24 日	第 5 回ミーティング
2024 年 9 月 25 日	第 6 回ミーティング
2024 年 10 月 3 日	第 7 回ミーティング
2024 年 10 月 9 日	第 8 回ミーティング
2024 年 10 月 15 日	第 9 回ミーティング
2024 年 10 月 22 日	第 10 回ミーティング
2024 年 10 月 29 日	第 11 回ミーティング
2024 年 11 月 3～4 日	相生祭
2024 年 12 月 2 日	第 1 回現地訪問ミーティング
2024 年 12 月 23 日	第 2 回現地訪問ミーティング
2025 年 1 月 14 日	現地訪問 事前勉強会
2025 年 1 月 21 日	現地訪問最終ミーティング
2025 年 2 月 5～7 日	糸島現地訪問

3. 活動のまとめ

①はたらき方に関するインタビュー

メンバー：木部結衣／金子結

■前原幼稚園 柴田美穂さん

担当：木部結衣／金子結

柴田美穂さんは神奈川県出身ですが、20代の頃に糸島市に移住されたという経歴をお持ちであることから、移住された経緯や関東の暮らしと糸島の暮らしとの違いなどをお伺いしたいと思い、今回インタビューさせていただきました。

柴田さんは大学生の頃から環境問題や農業などに対して関心が高く、20代までは関東で生活されていましたが、農業がしたいという思いから全国を巡り、その時ご縁があった糸島市に移住されました。その後、ご家庭を持たれ二児の母となり、幼稚園に勤務しながら、休みの日などは家庭で農業を楽しんでいらっしゃいます。

【担当者感想】

柴田さんのインタビューで私が一番学んだことは、自分が興味・関心のあることに対して積極的に行動することの大切さです。柴田さんは、自然をもっと大切にしたい！農業ともっと関わりたい！という思いから様々な農家さんの所を巡り、農業の楽しさ、やりがいを学んだとお話いただきました。私は、自分の興味のあることや人との関わりに対して、積極性に欠けていると感じることがあるため、柴田さんの行動力にとっても感銘を受け、自分も柴田さんのような積極性を持てるようになりたいと思いました。

木部 結衣

柴田さんにお話を伺った中で神奈川県と福岡県糸島市の様々な違いをお聞きして、私にはどのような環境や土地、働き方が合っているのか考えるきっかけになりました。現地訪問で実際に糸島市を訪れて、その自然や私が住んでいる地域とはまた違った空気の流れに触れたことで、柴田さんがお話ししてくださった糸島市の良いところを肌で感じることで、海や山に囲まれた糸島市の暮らしに心を惹かれました。そして柴田さんの経験談を通して、緑に囲まれた場所に住みたいという気持ちが湧き、今後の自分についての新たな選択肢を見つけることができました。

金子 結

お忙しい中、本インタビューを快く引き受けてくださった柴田さんのご協力に感謝申し上げます。

■弥富農園 弥富明子さん

担当：磯部怜衣／小野理子

弥富明子さんは、糸島市に住むネギ農家の方です。雷山の麓に広がる畑で加工用のネギを栽培されており、そのネギを使ったネギ油やインスタントスープの開発・販売に取り組んでいます。また、郷土料理の研究や普及活動にも尽力されており、糸島市の伝統的な料理「そうめんちり」を冷凍商品として、クラウドファンディングで開発されました。弥富さんの活動は、農作物の6次産業化や郷土料理の普及に貢献されており、学生にとっても、地域に根差した働き方や生き方が、人生観形成の参考になるとのことで、今回インタビューをさせていただきました。

訪問時、工場内のネギの出荷ラインと広大な畑を見学し、ラベル貼り作業を体験させていただきました。インタビュー中は、質問に対し丁寧に視線を合わせながら笑顔で答えてくださる姿が印象的で、和やかな雰囲気の中でインタビューを行うことができました。

インタビューでは、そうめんちりの商品開発を中心に、弥富農園のネギ商品についても伺いました。そうめんちりとは、鶏と醤油の甘辛いスープ、季節の野菜を入れた「ちり」に、そうめんを入れて食べる糸島市の郷土料理です。家庭や地域によって味が異なり、糸島市の文化継承のために、郷土料理委員会を立ち上げレシピを研究されたそうです。調理する人にとっての手軽さ、簡単さにこだわり、商品開発を行っているとおっしゃっていました。また、弥富農園のネギ商品は、その商品を用いた参考レシピを紹介し、用途の幅を広げられるように工夫されていました。

今回お話を伺い、弥富さんの商品開発にかかる思いがひしひしと伝わってきました。今後、商品開発で挑戦したい他の郷土料理もあるとお話されており、挑戦し続ける姿勢に感銘を受けました。そして、私たちは就職活動など今後の進路に迷いがありましたが、今回お話を伺い、自分の「やってみたい」という気持ちを大切にしようと感じ、今後様々なことに常に挑戦し続けたいと思いました。

本インタビューを快く引き受けてくださった弥富さんのご協力に感謝申し上げます。

■RUSTIC BARN 野見山昌子さん

担当：石井菜楠

1. 現在

福岡県糸島市志摩桜井にあるカフェ「RUSTIC BARN」のオーナー、野見山昌子さんにお話を伺いました。「RUSTIC BARN」は、NHK のドラマ『いとの森の家』の舞台にもなったカフェです。豊かな緑に囲まれ、四季折々の風景が楽しめる空間で、野見山さんのセンスが詰まった温かみのある雰囲気が魅力的でした。

2. 糸島市でカフェを開いた理由

野見山さんが糸島市でカフェを始めたきっかけは、糸島市にあるカフェ「SUNSET」に感銘を受けられたことでした。まだ糸島市が全国的に知られていなかった頃に、野見山さんがSUNSETを訪れた際、その雰囲気がまるで海外のようで、「こんな場所に、こんなにかっこいいカフェがあるなんて」と感動されたそうです。その経験が、野見山さん自身がカフェを開かれる原点になったとのことでした。

3. 海外経験

野見山さんは 26～27 歳の頃にイタリアに滞在していらっしゃいました。当時はバブル経済の時代で、海外に行きやすい環境だったため、海外での生活を経験されました。

4. インタビューを通して感じたこと

カフェの静かで落ち着いた空間の中、野見山さんは穏やかな口調でお話されていました。インタビューは終始和やかで、自然とリラックスしながらお話を伺うことができました。

私は現在大学3年生で、就職活動、大学院進学、海外留学など、将来について考えることが増え、不安を感じていました。しかし、野見山さんにお話を伺う中で、「まずは行動してみる」との大切さを改めて実感しました。今の「RUSTIC BARN」があるのは、野見山さんが数ある選択肢の中から自ら決断し、一歩踏み出したからこそ実現されたものです。その姿勢を見て、「迷っているよりも、まず動いてみるのが大切なのではないか」と思うようになりました。また、「糸島市での暮らしが幸せ」と話されていたのも印象的でした。自分にとって大切なものを大事にしながら、自分らしい選択をしていくことの大切さを学びました。

5. まとめ

今回のインタビューを通して、カフェ経営の話だけでなく、「自分らしい生き方を見つけること」の重要性を実感しました。野見山さんに自身の経験や価値観をお話いただくことで、将来について考える視野が広がりました。

お忙しい中、貴重なお話を聞かせてくださった野見山さんに、心から感謝いたします。

②プロジェクト OG との交流会

メンバー：山形漣／石井青葉

本年度も、昨年度に引き続き、プロジェクト OG の方々との交流会を実施しました。今回、プロジェクト OG の方々から活動を行う上で、意識することの具体的なアドバイスをいただくことができました。また双方の意見や思いを共有することで、今後の活動に役立つ有意義な時間となりました。交流会では計 3 名のプロジェクト OG の方々にお越しいただき、当時のプロジェクト活動や意識、就職活動、社会人生活などの貴重なお話を伺うことができました。

【協力してくださったプロジェクト OG の方々】

区分	卒業年度	学科	氏名
卒業生	2023 年度	英語文学コミュニケーション学科	田中 琴巳さん
卒業生	2023 年度	英語文学コミュニケーション学科	高橋 華緒さん
卒業生	2023 年度	日本語日本文学科	秋山 智加さん

本年度も昨年度同様、プロジェクト参加経験のある OG の方々と対面形式で交流会を行いました。今回の交流会では現プロジェクトメンバーが企画を行い、協力しながら進行を行いました。糸島市の魅力や就職活動のを中心、実際に現地に行った際に訪問してよかった場所など様々なお話を伺うことができました。用意した飲み物や軽食をふるまいながら、現地訪問前に貴重な意見交換をすることができ、とても有意義な時間となりました。

【交流会メンバー感想】

本プロジェクトに所属して、最初の活動であったため、不安と緊張がある中での交流会でした。また自分の任された仕事をやりこなせるか、OG の方々とうまく話せるかなど不安が多くありました。ですが、実際に交流会が始まると、年齢や学部学科関係なく、優しく接してくださる方ばかりで自然と緊張や不安がなくなり、楽しく話すことができました。特に気になっていた糸島市の訪問時に行って良かったところや就職活動について、OG の方々の体験を含めて、貴重なお話を聞くことができました。この経験を活かして、今後の将来を考えていきたいと思います。

山形漣

今回、本プロジェクトに参加するのが初めてだったため、具体的な内容がわからず、とても緊張していました。しかし、先輩方が丁寧にこの活動についてお話してくださり、交流会を通して、プロジェクト活動に対する不安や緊張が解けたように感じました。また現地訪問

や相生祭の活動を聞き、実際に自分が現地訪問するときや、相生祭で糸島市の商品を販売する際に、交流会で話を伺うことができよかったと実感しました。本プロジェクトでの活動が単なる学びの場に留まらず、将来にもつながる大切な経験であることを感じ、自分の将来について考えるきっかけとなりました。

石井青葉

③糸島市の魅力発信

メンバー：呂畑穂奈美／谷野萌香

2023年度のプロジェクトメンバーからInstagramのアカウントを引き継ぎ、2024年10月17日から再始動いたしました。投稿内容としては、再始動のお知らせ及び糸島市・本プロジェクトについての投稿に始まり、プロジェクト所属メンバーの紹介や9月に行われたOG交流会についての投稿を行いました。

●実際の投稿





上記の写真は、メンバー紹介の投稿で、2週にわたって掲載しました。

これら投稿を作成する上で他の投稿と差別化を図るため、「新しい味」というテーマで個性的な切り口を意識しました。そのため、文字装飾を施すなどの視覚的に目を引くデザインやキャッチコピーを工夫し、フォロワーの関心だけでなく、初めて投稿を見る方を引きつける投稿を心がけました。

また、見やすさにもこだわり、統一感のあるデザインやシンプルなレイアウトを採用しました。毎回異なるメンバーが投稿を作成するため、全体的な投稿の色合いが整うよう努めながら、更新を行いました。

さらに、より多くの人に情報を届けるために、適切なハッシュタグを活用しました。「#糸島」「#Itoshima」「#糸島巡り」など、糸島市を検索する際にどのようなワードで検索するかを推測しながら選定し、投稿ごとに最適な組み合わせを工夫しました。

●課題と改善点

今年度の魅力発信活動を振り返り、いくつかの課題点が見えました。

まず、投稿の更新頻度にばらつきがあり、定期的な発信が難しい場面がありました。今後はスケジュールを決め、計画的に投稿を行うことで、継続的に投稿を見ていただけるようにしていきたいと考えています。また、投稿の内容を写真だけではなく、リールを活用することで、より多くの方に見ていただける機会が増えるのではないかと考えています。そしてハッシュタグについて、英語だけでなく韓国語も取り入れていくことを検討しています。理由としては、糸島市訪問の際にインタビューをさせていただいた野見山さんより、経営されているご自身のカフェに、毎日のように韓国観光客が訪れていると伺ったためです。このようなことから、より多くの人目に留まるよう、韓国語のハッシュタグも活用していきたいと考えています。

●感想と今後について

今年度の魅力発信については、訪問が活動の後半に行われたため、使用できる素材が少なく、SNS 上で十分に活用できなかったと感じています。今後は、発信内容が限られている場合でも、内容を工夫して魅力を伝えとともに、可能であれば Instagram 以外の SNS も活用していきたいと考えています。また今後は、相生祭・糸島市訪問・糸島市訪問の際に行ったインタビューの内容に関する投稿を Instagram にて行う予定です。

④相生祭の地域物産展への出展

メンバー：須貝紅琉美／呂畑穂奈美／石井青葉

●出展内容・当日の運営

糸島市の魅力発信として、2024 年 11 月に相生祭の地域物産展に出展しました。今年度は SNS だけではなく、直接来場者の方々に糸島市の魅力を伝える機会を作りたいと考え、昨年度に続き出展を行いました。相生祭の地域物産展での出展中は、商品と同時に糸島市のチラシやガイドブックと一緒に手に取られる方が多く、糸島市の魅力が伝わっていると強く実感することができました。今回販売した商品は以下 8 点です。なお当日の運営は、接客、在庫管理、販売、設営などプロジェクトメンバーと協力して行いました。参加が初めてのメンバーが大半でしたが、声出しをして糸島市の魅力を全面的にアピールし、活動することができました。

【販売商品一覧】

商品	販売元
のむヨーグルト（オリジナル） 500ml	株式会社糸島みるくぷらんと
のむヨーグルト（オリジナル） 150ml	
のむヨーグルト（プレーン） 150ml	
のむヨーグルト（あまおう） 150ml	
牡蠣めし	糸島漁業協同組合
旬牡蠣の香味オイル漬け	
金山寺納豆	惣菜畑 がんこ
新米	加茂グリーンファーム

●来場者エピソード・販売する上での努力

今回、来場者のほとんどが初めて糸島市の商品を手に取りの方でしたが、来場者の約 1 割は昨年も購入されたりピーターの方でした。また、今年は糸島市が連続テレビ小説「おむす

び」の舞台となった影響もあり、「ドラマをきっかけに糸島市に興味を持った」という理由で購入される方もいらっしゃいました。特に、親子で来場される方が多く、その方々には「のむヨーグルト」が大変人気で、購入後、すぐに飲まれる方も多くいらっしゃいました。

販売当日は、来場者に足を止めてもらいやすくするため、「牡蠣」や【「おむすび」の舞台】といった言葉を積極的に用い、興味を引くよう工夫しました。その結果、「おむすび」を視聴している方との会話が広がり、「糸島市が気になっている」といった声を聞く場面が多くありました。

また、販売前の準備期間では、商品の魅力をより深く理解するためにメンバーで商品の試食を実施しました。相生祭後に現地訪問を予定していたため、事前に味や特徴を把握し、販売当日に「どんな味なのか分からない」という来場者の方にも、自信をもって説明することができました。

●課題と改善点

相生祭の地域物産展での出展を通して、2つの課題が見つかりました。

1つ目は、販売個数が少なく、早い段階で完売してしまったことです。当日の天気予想などを考慮し、仕入れ数を少なめに設定したため、予想以上の盛況に対応しきれず、2日目の正午にはすべての商品が完売してしまいました。この改善策として、販売個数の見直しを行い、どの商品がどの程度売れているのかを分析した上で、より適切な仕入れ数を判断し、販売を行う必要があると考えました。

2つ目は、販売価格の把握が十分にできていなかったことです。価格の決定が遅れたことで、メンバー間に認識のズレが生じ、一部の会計対応に混乱が見受けられました。この改善策としては、早い段階で価格を確定させ、メンバー全員で共有・確認を徹底したいと思います。また、会計時には丁寧かつ正確な対応を心がけることで、スムーズな運営をめざしてまいります。

4. 年間の活動を終えた感想

人間社会学部 社会マネジメント学科 2年 須貝紅琉美
担当：リーダー／交流会チーム／インタビューチーム／相生祭チーム

私は、昨年度から本プロジェクトに参加し、今回リーダーを務めさせていただきました。昨年度まで長く活動されていた先輩方が卒業され、自分が引っ張っていかなければならず、正直なところ、最初はどのように活動すればよいか悩みました。しかし、いつも担当職員の方やプロジェクトメンバーが支えてくれて、安心して楽しく活動することができました。

今年度のプロジェクトメンバーはプロジェクト活動自体が初めてという人も多かったた

め、どうしたら自分が経験したことを同じように経験してもらえらるだろう・・・と常に考え、何でも自分1人で行うのではなく、常に役割分担を行い、プロジェクトメンバーに任せて、主にスケジュール管理・リマインド役として引っ張ることを意識しました。

昨年度は夏の訪問でしたが、今年度は冬の訪問となったため、冬ならではの美味しい食や景色にふれることができました。さらに、お店の方やインタビューを行った方、糸島市役所の方など、どこへ行ってもあたたかく迎えてくださり、糸島市の人は本当に優しく魅力あふれる方ばかりだと改めて感じました。

また、インタビューを行う中で、糸島市で活躍されている方は、自分らしさやこう生きていきたいと芯を持って、さまざまなことにチャレンジされていることがわかりました。そのため、私も自分自身と向き合い、自分らしい人生を見つけ、そしてそれに向けて恐れずにチャレンジしていきたいと思います。

今年度も本プロジェクトの活動にご尽力いただいた糸島市役所の中島様、いつも活動方針やその中で浮かんできた不安について相談に乗ってくださった連携教育推進課の清水様、本当にありがとうございました。

今後も福岡県糸島市女性のはたらき方研究プロジェクトの活動にお力添えいただきますよう、お願い申し上げます。

人間社会学部 社会マネジメント学科 2年 呂畑穂奈美
担当：副リーダー／情報発信チーム／インタビューチーム／相生祭チーム

私は今回でプロジェクトに参加するのは2回目になりました。昨年度は1回生として、右も左も分からず、自分から発信して行動することが全くできませんでした。そのため、悔しい思いで終わってしまいました。今年度はその経験を活かし、もっと自分から行動し、自分の良さを活かせることがしたいと考えながら活動してきました。その結果、まだまだ成長が必要ではありますが、一歩ずつ着実に成長していると感じています。

特に今年度は、次年度から就職活動が始まることや、自分に何か誇れるものを残さなければならぬというプレッシャーを常を感じながら生活していました。しかし、訪問活動でかけていただいた言葉が非常に印象に残っています。「とにかく前に進む！1人だと思わない！ひとまず行動に移すことで出会いも増える」この言葉がその時の私を大いに突き動かしてくれたと感じています。また、この活動を通じて、コミュニケーション能力が大幅に向上したと実感しています。元々、私は自分の言語能力が低いと感じており、感情や思考を言葉や文字で表現するのがとても苦手だと感じていました。しかし、今年度は昨年度に比べて、自分から発言する機会やメールを送ることが増えました。その結果、まだまだ拙い部分もありますが、表現方法が増え、少しずつ伝える力が向上していると感じています。

この経験を活かして、これからも積極的に自分を表現し、他者とのコミュニケーションを

大切にしていこうと思います。そして、次のステップに進むためにも、この経験をしっかりと自身の生活や次年度の活動に活かしていきたいと考えています。

学芸学部 メディア情報学科 3年 谷野萌香
担当：副リーダー／情報発信チーム／相生祭チーム

今回、私は2度目の参加でしたが去年とは違い現地訪問が冬に行われたり、相生祭・地域物産展についても去年とは少し違う内容で動いたりとありましたが、今回私にとっては、とても良い経験となりました。私の都合上、参加できない時が多くあり活動は小規模でしたが、プロジェクトメンバーとの交流や活動内容はとても楽しく行うことができました。糸島市役所の方々にも大変お世話になりました。今回の経験を生かし、今後の生活に活かしていきたいと思います。

学芸学部 メディア情報学科 3年 石井菜楠
担当：相生祭チーム

2024年9月、友人とプライベートで糸島市を訪れました。夏の海は爽やかな青色に輝き、太陽の光が水面にキラキラと反射していて、とても美しかったです。

そして2月、大学のプロジェクト活動で再び糸島市を訪問しました。雪が降る寒さの中、桜井二見ヶ浦に到着すると、夏とはまったく異なる海の表情が広がっていました。深く濃い青色の海に、はっきりと大きく立ち上がる白波が力強く打ち寄せ、その光景に感動しました。

インタビューをする前は、地域の女性たちの働き方について具体的なイメージが湧きませんでした。しかし、実際に現地を訪れ、直接お話を伺うことで、彼女たちの努力や工夫を肌で感じることができました。その経験を通して、私自身も物事をより柔軟に考え、行動するようになりました。

また、訪問前は自分の将来に対して迷いや不安を感じていましたが、訪問後には自分の進むべき道が明確になり、気持ちがすっきりしました。「自分で決めた道だからこそ、これからも努力を続け、前向きに進んでいきたい」と強く思っています。

1年間を通して活動に参加する機会は少なかったですが、今回の経験を通してコミュニケーションの大切さを改めて感じました。相生祭の準備では、チームメンバーとの話し合いや役割分担が重要でしたし、卒業生との交流会では、積極的に質問することで多くの学びを得られました。今後も、自分から行動し、周囲と協力しながら成長していきたいです。

学芸学部 こども教育学科 3年 小野理子
担当：情報発信チーム／インタビューチーム

私は今回、初めての参加でした。本プロジェクトの参加理由としては、実際に現地に訪問して直接話が聞けるとのことで、新たな出会いのなかで将来を決めるヒントがあればと思い参加しました。

インタビューで皆さんの話に共通しているのは「好き」と「挑戦」でした。「好き」では、皆さんが心から糸島市という場所が好きで、自身に取り組んでいること、仕事が好きで誇りに思っていること。「挑戦」では、とりあえず行動してみる、行動した先に新たな発見や新たな出会いがある、挑戦する人には応援してくれる人がいる、これからもずっと挑戦するということ。そして変化を楽しみながら、今とても幸せだという気持ちをお話いただいた中で聞くことができました。

素敵な考えを知ることができた今回の訪問で、特に私は糸島市の副市長からのお話がとても心に残っています。全ての話がとても心に響き、泣きそうになる場面も多々ありました。そのなかで、「どげんかなる。どげんかする。」という言葉が印象的でした。「困難なことがあったとしても、どうにかなる。どうにかする。の気持ちで立ち上がる。そのときはきっと誰かが助けてくれる、応援してくれる。」

この「どげんかなる。どげんかする。」という言葉これから心の中に大切にもっておきたいと思いました。

今回の糸島市訪問で出会う全ての方があたたかく優しく、とても素敵な思い出になりました。3日間の訪問でしたが、糸島市がとても大好きになりました。また必ず行きたいです。活動に協力してくださった方々に心から感謝します。このような貴重な経験をさせていただきありがとうございました。今回の経験で学んだことをこれからの人生で活かしていきたいです。

学芸学部 こども教育学科 3年 磯部怜衣
担当：情報発信チーム／インタビューチーム

私は本プロジェクトを通して、女性のはたらき方を知り、将来の選択肢を広げたいという思いから参加しました。今年度は教育実習などにより参加できない活動もいくつかありましたが、プロジェクトメンバーや連携教育推進課の方々に助けていただきながら、本プロジェクトに関わることができました。

以前、糸島市に旅行した際には、海と山が近く自然に囲まれた素敵な場所にとっても感動しました。今回の訪問では、自然の素晴らしさに加え、地域の方々のあたたかさを何度も感じ、糸島市の魅力を感じることができる充実した時間を過ごすことができました。

インタビューを通し、人生の先輩方の物事の捉え方や大切にされていることを学び、自分の視野が広がったように感じました。お話を伺った皆様に共通していたのは、自分の「やりたい」と思った気持ちを大切にされているということです。私は将来に対しての不安を強く持っていましたが、自分の気持ちを大切にしてみようと考えようになりました。

糸島市は自然、食、人々と魅力があふれており、何度も訪れてみたいと思える素敵な場所でした。この貴重な経験を活かし、自己研鑽に励んでまいりたいです。ご尽力くださった糸島市役所、連携教育推進課の皆様にご心より感謝いたします。

人間社会学部 人間心理学科 2年 木部結衣
担当：インタビューチーム

私は今年度から本プロジェクトに参加しました。大学生のうちにボランティア活動や社会貢献活動に参加したいという思いから、「Sagami チャレンジプログラム」の中でも特に魅力を感じた本プロジェクトに参加を決めました。「女性のはたらき方研究プロジェクト」という名前の通り、女性ならではのはたらき方や地方でのはたらき方を知ることで、自分の将来設計の参考にしたかったということと、自然や田舎が好きな私にとって糸島市の自然の豊かさ、特産品の豊富さがとても魅力的に思え、ぜひ行ってみたい！と思い参加しました。この1年間で、OGの方との交流会や相生祭の地域物産展での出展、現地訪問など、とてもやりがいのある、貴重な体験をさせていただきました。

交流会では、糸島市の魅力はもちろん、就職活動について・社会人になってからのことなど、不安に思っていたことをOGの方に伺うことができ、とても充実した時間になりました。

地域物産展では、事前のおつりの準備や当日の接客、仕入れ費の振込など、特にお金関係の仕事は初めての経験だったため、大学生のうちに経験することができてよかったなと感じています。

2月の現地訪問では、実際に糸島市の自然や人々とふれあえたことで、より糸島市のが好きになりました。おしゃれなカフェや観光地を巡れたことも嬉しかったですし、なにより最終日の糸島市の副市長への訪問にて行った活動報告は緊張しましたが、自分の成長につながったと感じています。また、副市長が毎年糸島市役所に新規採用された人に向けて話しているお話を私たちにも教えてくださいました。私はまだ将来について定まっておらず、漠然とした不安な気持ちを持っていましたが、副市長のお話でとても勇気もらいました。現地訪問でお世話になった糸島市役所の職員の方やインタビューを引き受けてくださった方、馬場副市長、地域の方々、すべての方に出会えてよかったと感じていますし、とても感謝しています。

本プロジェクトに参加したことによって、自分の将来について、しっかり考えるきっかけを得ることができました。初めて行う仕事や経験に対して、不安に思うこともありましたが、自分から積極的に動くことの大切さを本プロジェクトで学ぶことができました。この1年で得られた経験や知識をこれからの生活に活かしていきたいです。

人間社会学部 人間心理学科 2年 金子結
担当：インタビューチーム

私はこれからの自分の将来のことや、近いうちに始まる就職活動に対して抱いていた不安を晴らしたいという思いと、自分のキャリアについて考えたいということから本プロジェクトに参加しました。

この1年間のプロジェクト活動を通して、私は自分にとっての仕事や就職について考えるとともに糸島市の魅力を知ることができました。

8月の交流会では、プロジェクトのOGの方々からご自身の経験談をお聞きし、自分が就職活動を始めるときや、プロジェクト活動をする上でのアドバイスもいただき、プロジェクト活動に活かすことができました。11月の相生祭の地域物産展では糸島市の特産品を販売し、来場者の方へ特産品や糸島市の紹介をすることで糸島市の魅力をお伝えすることを心がけ、現地訪問に行くことでリアリティのある感想を皆さんにお届けしたいという気持ちが強まりました。2月の現地訪問では実際に糸島市の豊かな自然あふれる風景や広々とした街並みに触れ、糸島市ではたらく方々にインタビューを行い、はたらくことへの価値観などをお聞きし、私の考え方が変わるきっかけになりました。

今年度から本プロジェクトに参加し、活動開始から現地訪問までの間に私の中で仕事や就職、キャリアに対する価値観と気持ちの変化がありました。以前は自分の中で就職活動に対して、恐怖心や不安、焦燥感を感じていましたが、現地訪問でのインタビューを通じてそれらが軽減されました。インタビューで皆さんの糸島市への気持ちや、糸島市で働くまでの経緯などを知り、皆さんのさまざまな価値観にふれ、自分とは違う価値観に出会ったことで、はたらくことへの気持ちが軽くなりました。今回インタビューを行った方々のように、焦燥や恐怖に臆することなく自分がやりたいことや新しいことに挑戦し続けたいです。

人間社会学部 人間心理学科 1年 石井青葉
担当：交流会チーム／相生祭チーム／インタビューチーム

私は今回初めて本プロジェクトに参加しました。参加のきっかけは「女性のはたらき方について研究する」という部分に興味を持ったことです。母の姿をずっと見てきたので、親近

感をもち、本プロジェクトに挑戦するきっかけとなりました。

本プロジェクトでは主に交流会チームとして活動しました。準備期間は不安と緊張しかありませんでしたが、OGの先輩方やプロジェクト継続メンバーの先輩方に助けられ、交流会本番では緊張も解け、このプロジェクトが進んでいくことが待ち遠しくなっていました。相生祭の地域物産展ではOGの方に教えていただいた糸島市の魅力を発信することを意識し、活動ができました。このプロジェクトに入るまで、糸島市のことを何も知らなかった私ですが、来場者の話を聞いたり、商品が売れたりすると、とても嬉しかったです。そして何より、現地訪問することによって、自分自身も大きく成長できたと感じました。インタビューをする姿勢や、どのような思いをもっているのか知ることができ、自分の誇りをもてるような仕事に就きたいと感じました。

本プロジェクトに参加したことで女性の多様なはたらき方を知るとともに、自分の将来を考えるきっかけになりました。来年度は今年度の反省を活かし、積極的に活動していきたいです。

人間社会学部 人間心理学科 1年 山形漣

担当：交流会チーム／相生祭チーム

私は自分の将来を考えるきっかけが欲しいと考え、女性のはたらき方について学ぶことができる本プロジェクトに参加しました。最初は考えを共有することや意見を言うことが苦手で、なかなか打ち解けることができませんでしたが、ミーティングや交流会、相生祭の地域物産展などで、顔を合わせる機会が増えていくうちに自然とコミュニケーションをとることができるようになっていきました。

また、交流会チームとしてどのように会を進行していけばよいか、先輩方に聞きたいことは何かをしっかりとピックアップすることができたため、スムーズに会を進行することができました。先輩方から聞く糸島市のお話はとても魅力的で実際に訪問するのが楽しみになりました。

今回は残念ながら予定が合わず現地訪問に参加することはできませんでしたが、このプロジェクトに参加したことで、糸島市の魅力や様々なはたらき方を知り、自分自身が今後どのように働いていきたいかを考えることができました。この経験を活かし、自分の将来について深く考えていければ良いと思います。

5. お世話になった方々のご紹介

株式会社 糸島みるくぷらんと

「おいしい牛乳を世の中にとどけたい」という酪農家たちの思いから、伊都物語をはじめ、乳製品を販売されています。相生祭の地域物産展では看板商品の「伊都物語のむヨーグルト」を販売させていただきました。

<https://www.itomonogatari.com/>

惣菜畑がんこ

「美味しい時期に美味しく調理を」モットーに糸島市の食材を使い、お惣菜、お弁当や加工品などを販売されています。本プロジェクト発足当初からお世話になっており、テレビでも取り上げられた「金山寺納豆」を相生祭の地域物産展で販売させていただきました。

<https://itoshima-ganko.com/>

糸島漁業協同組合（JF 糸島）

糸島産の新鮮な海産物の販売などを行っており、相生祭の地域物産展では、昨年度に引き続き「牡蠣めし」「旬牡蠣の香味オイル漬け」を販売させていただきました。

加茂グリーンファーム

糸島市で野菜や柑橘類、米を生産する農園であり、相生祭の地域物産展では、昨年度に引き続き「新米」を販売させていただきました。

柴田美穂様

神奈川県出身。20代で関東での生活に行き詰まりを感じたことで2004年頃に糸島市へ移住されました。子育てをきっかけに、子供がのびのび遊べる場づくりや育ちに関する活動に取り組まれています。現在は、前原幼稚園に勤務されていて、休日には有機農法の野菜作りや養蜂を楽しまれるなど、農と関わりながら暮らす「農的暮らし」を営まれています。この度、2月に実施した現地訪問にてインタビューを行い、大学のある神奈川県出身で子育てをしながらも、自信の挑戦する姿勢を見せる生き方に感銘を受けました。

野見山昌子様

福岡県出身。志摩桜井にある「RUSTIC BARN」というカフェのオーナーをされています。イタリアで過ごした経験から田舎暮らしに目覚め、2000年7月に日本の昔懐かしさが表現されたカフェ「RUSTIC BARN」をオープンされています。また、カフェ開業からの20年の日々を綴ったエッセイ「ようこそ RUSTIC BARN へ」が2022年7月に発売されました。この度、2月に実施した現地訪問にてインタビューを行い積極的に行動に移す主体的な生き方に感銘を受けました。

<http://rusticbarn.info>

弥富明子様

糸島市在住。雷山の麓にある自身の畑で栽培したネギを使用したネギ油やインスタントスープの開発・販売をされています。郷土料理の研究や普及活動にも力を注がれており、糸島市の郷土料理「そうめんちり」の冷凍商品をクラウドファンディングで開発されました。この度、2月に実施した現地訪問にてインタビューを行い、地域に根差した働き方、生き方がとても参考になりました。

<https://yatomifarm.com>